



2013年7月3日放送

漢方を理解するための10処方

日本漢方振興会漢方三考塾 講師 高山 宏世

(6) 桂枝茯苓丸 (けいしぶくりょうがん)

この処方のキーワードは「瘀血」です。

弁証のキーワードは、①小腹鞭満・瘀血の圧痛、②月経異常、③頭痛・肩凝り・冷えのぼせ、などです。

(どんな処方か?)

桂枝茯苓丸は瘀血を治療する活血化瘀 (かっけつかお) 剤の中で最もよく用いられる処方です。

漢方特有の瘀血とは様々な原因で血流が停滞したため生じる血液の循環障害及びそれに続発する病理変化を総称したものです。

現代医学的には、瘀血は或る種の内・外因が働いて心臓・血管・血液に病理的变化を起し、その結果、血流の停滞、血液の凝縮、あるいは血管の変性や破壊が生じた病態です。具体的には諸種の循環障害や血液異常で、高血圧症や糖尿病あるいは高脂血症などに因る動脈硬化性血管病変・或る種の出血性紫斑病・自己免疫性血管炎・打撲や外傷に伴う全身のあるいは局所的血管病変など実に多種広範な病変や疾患を中に含んでいます。

瘀血の原因を漢方的立場から考えると、

1) 先ず考えられるのは気の滞りに因る気滞性瘀血です。気と血は互いに働きは異なりますが、気血は常に密接に協同して働いており、血が体内を循環するのは血と密着し

た気のエネルギーに拠ると考えられています。従って気の流れが滞ると血流も瘀滞するのです。

2) 同様に、血を行らす気そのものが不足する場合も血を推し動かす動力が足りないため血流は衰え瘀血が生じます。これは気虚に因る瘀血です。

3) 次に、陽気は気の種類で体を温めます。陽気が不足すると血が冷えて固まり循環が悪くなり、寒凝瘀血という寒冷性の血流障害が生じます。

4) また逆に熱気が過剰にあると血の温度も上がり、水分が乏しくなるので粘度が増し瘀血を生じます。

5) 外界の寒熱燥湿などの異常はいずれも血流を障害するので、瘀血を生じる原因になり得ます。

6) 打撲や外傷に因る炎症性反応や血管の破壊も外傷性の瘀血を生じます。

次に瘀血の証候、則ちどのような所見や症状を診たら瘀血証と診断すべきでしょうか？

1) 外観上は皮膚がささくれてどす黒い肌膚甲錯、血絡という静脈の怒張、或は毛細血管が拡張した細絡、と云った体表の変化がしばしば現われます。

2) 顔色が赤黒く、目の回りにクマがあり時に目も充血しています。

3) 紫斑、紅斑、皮下出血が出やすい。

4) よく頭痛・肩凝り・腰痛などを訴え、逆上したり冷えを訴えたりする「冷えのぼせ」の症状があります。瘀血に因る痛みは固定性で刺すように鋭い疼痛が多く、瘀血に因る発熱は主に夜間に出るのが特徴です。

5) 月経異常・生理痛・不妊症など婦人科的な愁訴が多い。或は血尿や不正性器出血を起し易い。

6) 舌は暗紅色、時に紫斑が見え、舌下静脈が怒張。

7) 脈は沈で何となく拍動の力が一定しない渋脈です。

8) 下腹部は鞭満し、便通が悪く便は黒い、瘀血特有の圧痛点が現われます。

9) 瘀血に因り腹部に子宮筋腫など固定性の腫瘤を生じることがある。

と云ったところです。

(桂枝茯苓丸の原典)

桂枝茯苓丸の出典は『傷寒論』と並ぶ漢方医学の原典である『金匱要略』の婦人妊娠病篇第二十からです。始めは婦人の下焦の瘀血証の治療及び妊娠との鑑別のために創製された処方でしたが、最初に述べたように今日では瘀血証の最も一般的治療薬として繁用されています。

「婦人宿(もと)癥病有り、経断チテ未ダ三月ニ及バズシテ漏下ヲ得テ止マズ。胎動キテ臍上ニ在ル者ハ癥瘕ノ害タリ。妊娠六月ニシテ動ク者、前三月経水利スル時ハ胎也。下

血シテ後三月断ツ者ハ疝也。血止マザル所以ハ其ノ癥去ラザルガ故也、当ニ其ノ癥ヲ下スベシ、**桂枝茯苓丸**之ヲ主ル」とあります。

現代文に意約してみます。通常正常な妊娠であれば、不正出血は無く、6ヶ月で下腹部に始めて胎動を感じるものです。ところが、癥病即ち腹腔内に瘀血性の硬くて動かない腫瘤・現代でいう子宮筋腫が有る婦人は月経が無くなって3ヶ月にならないのに不正出血が止まらず、しかも臍の上で動悸を感じます。妊娠したか疑わしい6ヶ月の間、前の3ヶ月は月経が有りその後月経が止れば、これは正常な妊娠です。前の3ヶ月は不正出血が有りその後月経が無いのは経絡外に洩れた血が固まる疝が形成されているからで、これは正常な妊娠ではない。不正出血が止まらない人は瘀血が積聚してできた癥が去らない故ですから、**桂枝茯苓丸**で癥を下すべきです。

以上の条文から**桂枝茯苓丸**は本来下腹部に在る瘀血を去り、子宮筋腫などを治す処方であったことが判ります。

『金匱要略』の条文に後世の経験を加えて、本方は次のような場合によく用いられています。

- 1) 婦人が流産後も不正出血が止まらない場合。
- 2) 生理不順や月経困難症で特に浮腫傾向がある人。
- 3) 瘀血に因り下腹部に腫塊や痛みを生じた者。
- 4) 出産後、胎盤がうまく下らない者。
- 5) 下腹部の鞭満、冷えのぼせ、動悸肩凝り、肌膚甲錯など、一般的な瘀血の証候がある者、などです。

(桂枝茯苓丸の処方構成)

桂枝茯苓丸は桂枝・茯苓・桃仁・牡丹皮・芍薬の五味から構成されています。

瘀血を治す薬ですから、君薬は活血化瘀薬の桃仁と牡丹皮と考えられます。この2薬は協力して瘀血を除き、腫塊を去り、痛みを止めます。

臣薬は桂枝です。血や水を巡らすためには気の働きが不可欠で、気を行らせて血の阻滞や痛みを去り、血行を改善する原動力になっています。

佐薬は芍薬です。芍薬には赤芍薬と白芍薬の別が有り、白芍薬が一般的で補血養陰に用いられますが、本方では破血と鎮痛に効く赤芍薬の方を用います。

茯苓は使薬です。脾を補い体内の余分な水分を排泄します。瘀血で血行が滞ると特に下半身に水気が貯留して浮腫や尿不利を生じるので茯苓で利水をはかり水はけを改善します。

本方を虚実の上から見ると瘀血は実証で桂枝茯苓丸は瀉剤に属します。血の流通が阻害された状態は血の流れを阻害する要因即ち瘀血という実邪が存在すると考えるので、瀉法を用いて血の瘀滞を去り血流を改善してやるのです。逆に血が不足した状態は血虚と言い、

これは不足＝虚証ですから補法を用いて血の生産量を増やす治療を行うことが必要で、標準的には四物湯をベースにした処方を用います。

(桂枝茯苓丸の臨床応用)

これまで繰り返しお話したように**桂枝茯苓丸**は瘀血に起因する諸症状や疾患に広く応用される処方です。思い付くままに病名を挙げて見ますと、子宮並びに付属器の炎症、子宮内膜症、子宮筋腫、更年期障害、自律神経失調症、月経不順、月経困難症、稀発月経、不妊症、不正性器出血、死胎、子宮復古不全、胎盤残留、或は蕁麻疹、慢性湿疹、紅斑、酒皰、打撲傷、痔疾その他、証が合えば様々な疾患に応用が可能です。

瘀血は男女を問わず、いろいろな病気を引き起こすだけでなく、体の深い所に隠れていて心身の不調の原因にもなります。例えば肥満や不定愁訴なども瘀血が関係している例が少なくありません。また「久病ハ瘀血ヲ生ズ」という格言があつて、病は総て末期には必ず瘀血を伴ってきます。瘀血体質の人には機会ある毎に**桂枝茯苓丸**を服用させると瘀血が改善され「未病ヲ治ス」ことにもつながります。